

VISTA V ユーザーレポート

株式会社福岡放送 様

Vista V-42F



音声継車にVista Vを採用



株式会社福岡放送
技術局 制作技術部
川邊 淳一

201音声継車

1999年の納車から早16年が経過した弊社の201音声継車。年間を通して、野球中継・J1サッカー中継・ゴルフ中継などのスポーツ番組での使用が多いですが、24H TVや特番などの制作番組での運用もあります。また、博多では毎年、起源770年以上の博多祇園山笠があり、櫛田神社の境内に山笠を昇き入れる“櫛田入り”を必ず中継しています。走行距離が比較的少なく傷みがないこと、車両スタッフの日頃のメンテナンスのおかげで外装の劣化がほとんどないことから、車両はまだ使用可能であると判断し、今回は音声卓の更新のみを行う方向で検討を開始しました。また、音声卓が変わるため、可能な範囲内でモニター棚まわりも改修することにしました。



VISTA V

前年Aサブ更新をした際に、VISTA Xを採用したことがやはり最大の選定理由です。その際に、デモを行い音質・操作性などを比較していましたので、間違いないことはわかっており、サブで運用しているオペレーターでも簡単に操作できることも利点でした。旧音声卓とVISTAの操作性が似ていたこと、弊社の要求仕様どおり、比較的狭い既設ラックやスペースに実装できたことも選定の理由と言えます。

モニター棚

スピーカー設備は更新せず、モニター棚のほぼ正面部分のみを改修しましたので、モニター棚改修による出音そのものの劇的な音質変化はありませんが、メインの映像モニターが小さくなったことと、それらの影響を受けにくいデザイン形状にしたこともあり、音の反射が明らかに減少したと感じます。また、足元がすっきりとしたデスク形状のせいか、卓周辺での低域のたまりがなくなり、全体的に音像がクリアになったという印象です。結果的に定位もつかみやすくなり、わかりやすいモニター環境になったと思います。また、VISTA Vの音質が良いせいか、長年使用しているオーラトーンの特性の良さに改めて驚きました。これまで、私はミックス時にオーラトーンをほぼ

リファレンスとしていましたので、自分の感覚が間違っていなかったんだと安心した次第です。

映像モニターについては、今まで素材モニターへの目線が高かったため、今回は全体的に少しでも重心を下げたいと思っていました。同時に、映像モニターの数も増やしたいという希望もありました。VISTA VIはメーターブリッジがやや高く、その折り合いをどうつけるかがポイントでしたが、結局メインモニターを小型化し、その周辺に小さなモニターを配置することにしました。おかげで、メインモニターの重心も下がり、VU計、ラウドネスメーターもモニター棚に収めることができ、大変視認性が上がって快適な環境になったと思います。

運用してみて

更新後の初仕事は、全国ネットの競輪中継でした。初めての運用でいきなり全国ネットだったので、緊張しましたが、無事終えることができました。その後、Jリーグサッカー・野球・山笠中継などで使用しています。サブで既に使い慣れた卓でもあり、スムーズに前卓から移行ができました。ビストニクスのクイックアクセスは、中継のような即時性が求められるところではやはり使いやすいです。今後、特番やゴルフなど様々な番組で活躍すると期待しています。